

## I. はじめに

### 1. 研究組織

東山梨地区の教育条件整備部会は、教頭1名・事務職員30名計31名により構成され、甲州支会・山梨支会の二つの支会に分かれて研究を進めている。

甲州支会は、小学校13名・中学校5名計18名により構成されている。また、採用3年未満の事務職員4名、代替・期間採用者6名と経験の浅い事務職員が半数を占める構成となっている。昨年度は、校長1名・教頭1名を含む計20名で研究を進め、予算要求の考え方や教育環境の整備について、管理職の視点から効果的な指導助言を直接いただくことができた。

### 2. 研究テーマ

県・郡研究テーマ 「 豊かな教育を子どもたちに 」

甲州支会研究テーマ 「 教育環境の改善と『その先』をめざして 」

### 3. 研究テーマ設定の理由

東山梨地区では、研究期間を複数年単位（3年サイクル）として継続的な研究を進めている。甲州支会では、研究テーマの具体策として、3つの柱に焦点を絞っている。

第1の柱 「調査・分析」・・・学校の実態を把握し有効な予算編成をおこない、  
予算要求や広報活動につなげる

第2の柱 「標準化」・・・学校間格差や市町村合併による格差問題の検討・改善

第3の柱 「5S活動」・・・整理・整頓・清掃・清潔・躰（5S）  
仕事の効率化の検討・コスト削減・業務改善

今年度は、3年サイクルの新たな1年目となる。これまでの研究内容から、世代交代を見据えた小中学校の標準化や、事務職員自身の事務負担の軽減、財務の専門性を高める中で学校運営への参画にむけた研究を推進していく。

特に5Sの研究では、一般企業においては、いかに効率よく効果・業績を伸ばせるか（費用対効果）が要であり、マネジメントの力を徹底していることを学んできた。この企業のとりくみから、予算の効果的な執行を心掛けることで、甲州市をあげて推進している『確かな学力の育成』や、チームとしての『学校運営への参画』、そして事務職員自身の事務負担の軽減となる『学校事務の効率化』へとつなげていきたいと考える。

### 4. 研究日程

月日	会場	内容
2017年度 5月10日	塩山南小学校	全体会、研究テーマ・研究内容の確認
5月18日	塩山中学校	予算分析、5S活動（情報共有）
6月14日	加納岩小学校	山梨支会視察研修
7月31日	塩山中学校	予算分析、5S活動（情報共有）
8月30日	塩山中学校	予算要求、バス代私費負担調査、5S活動（情報共有）

9月20日	塩山南小学校	各支会中間報告，予算要求，バス代私費負担調査
11月29日	塩山中学校	予算要求後の情報交換，5S活動（グループ別検討）
1月10日	塩山中学校	5S活動（実践校視察，グループ別実践報告会）
1月12日	視察研修	富士ゼロックス多摩株式会社 甲府営業所
2月7日	塩山中学校	全国教研還流報告，5S活動（情報共有）
2月14日	塩山南小学校	全体会，支会研究報告，研究のまとめ
2018年度 5月9日	山梨北中学校	全体会，研究テーマ・研究内容の決定
5月23日	塩山中学校	予算分析，5S活動（情報共有）
6月14日	山梨北中学校	予算分析，5S活動（情報共有）
8月6日	奥野田小学校	予算分析，5S活動（実践校視察），事務機器視察
8月29日	山梨北中学校	予算執行状況確認，5S活動（グループ別検討）
9月19日	山梨北中学校	支会中間報告，予算要求

## II. 研究経過

昨年度はまとめの年となったため，本支会では，次の6つの内容について，研究を継続して進めている。

### （1）研究内容

- ① 予算差引簿・分析ファイルの活用
- ② 予算分析
- ③ 算定基準の検討
- ④ 校外活動貸切バス代私費負担調査
- ⑤ 視察研修
- ⑥ 5S活動

### （2）とりくみ及び成果と課題

#### ① 予算差引簿・分析ファイルの活用（資料1）

甲州支会では，学校配当予算の分析を継続的にとりくんでいる。これまで，前年度予算の分析を進める中で，年度末の予算執行率に課題があることが確認されてきた。また，2018年4月に，旧財務システムが新財務システムに切り替わったことも受けて，予算の配当状況や執行状況を提案資料として活用できる，予算差引簿・分析ファイルを作成し，全小中学校で活用することにした。

予算の執行状況については，年度初めや各学期末の職員会議等での提案資料としての活用を進めている。また，研究会の中でも，小グループに分かれて定期的に確認をおこなうことで，学校予算執行上のポイントや留意点を確認することができ，時期に応じた計画的な予算執行を心掛けている。

【2学期当初の予算執行状況を確認した中で確認されたこと】

- 予算の執行率は、小学校30%～40%、中学校30%前後の学校が多かった
- 消耗品費の執行率は、30%～50%の学校が多かった
- 消耗品費は、12月末までに100%執行するつもりで計画した方がよい
- 食糧費は、来賓来客用にペットボトル飲料も購入することができる
- 運営費手数料の執行は、年度末におこなう学校が多い（カーテン等のクリーニング）
- 運動会や学園祭を控えているので、準備品を8月中に確認しておく
- 報償費は、学園祭や校内大会の参加賞を購入するため、各学年から早めのとりまとめをする
- 備品購入費は、予算要求書の提出までに執行を済ませた方がよい

今後も、予算要求時に使用する提案資料の作成を控えているため、類似した書類の作成を減らし、わかりやすく共通して活用できる資料の作成にとりくんでいく。また、市内同一歩調で経験の浅さを補いながら進めていくとともに、適正な予算の執行について考えていきたい。

## ② 予算分析

2016年度の予算執行額と2017年度の要求額・配当額の予算分析をとおして、自校及び甲州市全体の成果と課題を洗い出した。明らかになった課題については、甲州市打合せ会（以下、打合せ会）を通して、甲州市教育委員会（以下、市教委）へ予算に関わる質問・要望として提出した。

【予算要求に関わる質問・要望事項】

- 委託清掃業務の拡充
  - 小学校 外国語・道徳予算の計上
  - 事務機器等リース料予算措置
  - ナンバーディスプレイ契約
  - 校内インターフォンの環境整備
  - 管理備品の予算措置
  - 実績要求額の確保
  - 共有できる備品の利用環境の整備
- 質大規模工事・修繕の見通しについて ・ リース終了に伴う教職員PCの入替整備について

また、2016年度予算要求時より、配当予算の前年比-5%のシーリングが初めて導入された。昨年度も同様の要求が求められていることから、枠配当に伴う学校間格差の拡大や、大型備品の購入が、より難化することが想定されている。この点を踏まえて打合せ会と連携し、次年度の予算要求にむけた私費負担の軽減や、特色ある学校づくりを推進するために必要な予算のあり方について考えた。

今年度も、自校の分析データを他校と共有することで、甲州市の予算状況を確認することからとりくみをすすめている。分析の結果、2018年度の配当予算から確認された課題は、以下の3点である。

- ① 配当項目に関係なく、消耗品費を削減されてしまった。（主に中学校）
- ② 5%シーリング後の枠範囲内で要求した大型備品が切られてしまった。（児童用椅子・ストーブ・ホワイトボードなど）
- ③ 市教委から、枠の範囲外として要求を求められた大型備品の購入費が配当され、枠の範囲内で要求した優先度の高い備品（大型ストーブ）が切られてしまった。

これらの課題から、5%減額した要求書を提出したにも関わらず、全ての中学校が9%以上の減額配当となり、減額が大きい学校では、13.2%の削減（中学校の平均削減率-11.2%）配当となっていることが明らかになった。

また、枠予算化の弊害として、清掃用具を購入する予算がなくなりつつある学校や、本来、公費として計上することが望ましいとされる費目を、公費に計上することができない中学校があることも確認された。そのため、中学校を対象に保護者負担経費の見直しについて話し合う場を設けた。その結果、今年度の配当を受けて、生徒会費の減額はできたが、学年消耗品費については現状維持せざるを得ない中学校があることも明らかになった。

このまま－5%シーリングが続くと、学校間格差がさらに拡大してしまう恐れもある。そのため、これらの調査データを打合せ会と共有し、今年度の予算要求時には、必要以上の削減を強いられぬよう、要求していくことを確認した。

### ③ 算定基準の検討

前記の予算要求方針や、市教育総務課長の「予算を使い切らなければという意識は持たないでほしい。」というお話から、私たちの予算運営に対する意識変革の必要性を感じている。しかし、学校規模に応じた確実な予算配当枠の保障がないと意識変革は難しいため、かつて、検討されていた「算定基準」の活用についても併せて検討を行った。

検討の結果、「現在の予算配当は、旧町村時の予算が基礎になっていること、また、この予算は、特色ある学校を推進するために、合併前から継続して要求を続けてきた結果でもあるため、同規模の学校でも配当状況が異なっている。市教委が、予算要求やヒアリングを通して学校状況を把握している現段階では、メリットよりもデメリットの方が多くなることが想定されるため、導入の必要はない。」との結論に達した。今後の動向については、各校の予算状況や他市の動向を把握しながら、予算要求の方法について検討していくことを確認した。

### ④ 校外活動貸切バス代の私費負担額調査（資料2）

2014年度に貸切バス料金の積算方法が大きく変わったことを受けて、各校の校内行事について、バス代の私費負担状況を調査している。本市では校外活動の際に使用する貸切バス代に公費としての補助はなく、今後も児童数の減少に伴い、保護者負担の増額が懸念されている。そのため、調査結果を打合せ会と共有し、義務振の場で市への要望書を提出しているが、市の財政状況が厳しいこともあり、具体的な改善には至っていない現状である。しかし、学校事務職員として正確な情報を収集することで、実態を把握し、自校の私費負担の状況を理解しておく必要性もある。現状を市教委へ伝えるためにも、より具体的な根拠資料の作成と、調査結果の更なる活用が現在の課題である。

甲州市では、市が所有している庁用バスが2台と市公用車（10人乗り）が1台整備されている。この庁用バスは、市の各行事での利用が最優先となっている。学校で利用する際には、事前に利用状況を確認した上で申請書を提出する必要があるが、見学先の施設を予約する際には、二転三転してしまう現状がある。また、今年度より、庁用バスの利用に関する規定の改正を受けて、県外まで利用する際には燃料費を支払うことになり、泊を伴う行事には利用ができなくなった。

今年度は、昨年度までの調査結果を活用し、2016年度と2017年度の2ヶ年を対象に、年度単位での私費負担状況を確認した。今までの調査結果を活用し、庁用バスの利用促進や、業者の選定に事務職員が加わったことで、私費負担の軽減に繋がった学校もある。しかし、小規模校では児童数の減少に伴い、一人当たりの負担額が大きくなっている現状も明らかになった。また、同規模の学校を比較した際に、私費負担状況に差があることも明らかである。私費負担の軽減を検討していく中で、複数校が合同で校外行事を実施した際の利点を検討するとともに、引き続き、学校単位で利用できる庁用バス体制の拡大や、保護者負担の軽減にむけて、打合せ会と情報を共有する中で、学校の実態を市教委まで届けていきたい。

### ⑤ 視察研修（資料3）

2018年1月10日、富士ゼロックス多摩株式会社 山梨営業部を訪問し、「残業を抑え、減らない仕事の効率化」をテーマに、企業の働き方改革についての研修を受講した。

研修では、仕事の効率化や企業の働き方改革の中で生まれた最新の複合機、OCRソフトを活用したアプリケーション『Docuworks』を体験することができた。また、働き方改革に伴い、企業が導入している諸制度についての説明もあり、「一人辺りの生産性をどのように上げるかが株式会社の使命」といった民間企業の考え方についても学ぶことができた。その他にも、職場のフリーアドレス化や様々なテレワークを駆使した『見える化・共通化』についても学ぶことができ、書類のペーパーレス化や、データフォルダの容量制限、共有フォルダの保管体制と

いった情報分野についても知識を深めることができた。企業がとりくんでいる実践の中から、学校現場でも実践できる部分を検討し、学校運営が円滑になるよう、事務処理の効率化と教育環境の改善にむけた予算要求を続けていくことを確認した。

また、今年度、市内の小学校4校では、複合機のリース終了に伴い、『Docuworks』を含む複合機を予算要求していたため、7月から導入することができた。導入された学校では、富士ゼロックスの担当者が来校し、教職員を対象とした『Docuworks』の活用研修が開かれた。それを受けて、本研究会でも導入校を視察し、実際に学校現場での活用状況についての学習会をおこなう中で、『Docuworks』の全校整備を検討している。

#### ⑥ 5S活動 ～整理・整頓・清掃・清潔・躰～（資料4）

昨年度までのとりくみに加え、日々の業務の効率化にむけた情報交換をおこなってきた。教育環境の拡充とコスト削減の観点から、効果的な予算の活用を目標に、小グループに分かれて各校の課題について話し合うことができた。その中で、各グループの代表者が自校でとりくんだ実践を全体で報告した。

発表された実践は、事務職員個人の実践から、管理職が主体となり学校全体でとりくんだ実践まで様々であり、日頃の事務処理の中で感じている課題や情報を共有することで、各々が自校の状況を顧みる良い機会となっている。

また、実践にとりくんだ学校を視察することで、他校の様子を知るだけでなく、限られたスペースでの物品や書類の管理方法を学び合うことができている。普段自校の中でしか仕事をしない私たちにとって、大変有意義な場である。

「人・物」の入れ替わりが多い学校現場では、「整頓された状態を保ち習慣化させる」という意味の最後のS『躰』が一番の課題となっている。この部分は、事務職員ではなく管理職による働きかけが大きいことも明らかになった。実践の中で捉えた課題を学校全体で共有するためには、やはり、管理職が中心となり、学校全体で業務改善にとりくむ必要がある。

事務処理の効率化や、働き方改革・業務改善にむけた糸口を探る中で、事務職員が主となって5S活動にとりくんでいくことの必要性も話題に上がっている。今後も継続的にとりくんでいくためにも、日頃の実践で得た様々な情報を共有し、各々が自校に持ち帰って情報を発信していくことで、子ども・教職員どちらにとっても、過ごしやすい環境を作り、質の高い教育環境を整備していきたい。

### Ⅲ. 研究のまとめ

企業の実践を視察する中で、『改革』と『改善』の違いについて話を伺うことができた。『改革』は、「現状を否定する視点に立ち、一から新たに構築していくこと」、『改善』は、「現状を肯定する視点に立った上で今あるものを取捨選択し、今後活かしていくこと」だそうだ。

甲州支会では、予算分析・バス代私費負担調査・5S活動の継続を通して、保護者負担の軽減や学校の職場環境を整備していくことを中心に進めてきた。これらの調査結果を見直し、一から新たな予算要求につなげていくことも大切ではあるが、既存のデータの活用や限られた予算の有効活用を全員で考えることで、互いに学び合い、事務職員としての専門性を高め、甲州市の教育環境を整備していくことに努めている。

「厳しい財政状況の中であっても、教育環境の改善をすすめる手立てを・・・」

今時の研究では、経験の浅さを補いながら、一人一人の職務に対する意識を改革し、結びつけていくことで、業務の改善を模索することを試みている。研究の場で学んだことを自校に持ち帰り、事務職員が主となって情報を発信し、その結果を再度研究の場に持ち寄ることで、初めて、組織としての成果や課題を研究の場で共有することができている。単数配置だからこそ、自校から一歩外に踏み出し、様々な刺激を受けて、改めて自校に還元できる環境を支会の中で構築していくこと。また、その中でこれからの事務職員としてのあり方を検討し、私たち自身の職務を共同で推進していくことは、学校事務職員の職務に関する法改正を受けた上での好機と捉えている。

甲州支会は、これらの実践を、学び合いを深める場の手立てとして活用し、一人一人が様々な考えを持ち、共有し、発信していけるための研究会としてあり続けたい。

※フリーアドレス…図書館の閲覧室のように、社員が個々に机を持たないスタイル

※テレワーク…情報通信技術(ICT)を活用し自宅や出先などで場所や時間にとらわれない柔軟な働き方

※ **5 S活動** …業務を安全かつ効率的に進めるために、職場環境の整備と改善にとりくむこと

- ① **整理** 必要なものと不必要なものを分類し、不必要なものを捨てたり廃棄すること
- ② **整頓** 必要なものを必要なときに迅速にとりだして使用できるように配置場所・配置方法を決めて表示するなどの工夫をすること
- ③ **清掃** 掃除をして綺麗な状態にすることであり、その過程において細部の点検をすること
- ④ **清潔** 上記の3つ「整理」「整頓」「清掃」を徹底し、その状態を維持すること
- ⑤ **躰** 決定したとり決めに職場全員で共有し、習慣化すること

「5 S活動」とは、上記の5つの行動を適切におこなう一連のとりくみです